

MACF 礼拝説教要旨

2022年4月10日

「苦難のしもべ」

「人の子は仕えられるためではなく  
仕えるために、また、多くの人の身代金として  
自分の命を献げるために来たのである。」

(マルコによる福音書 10章 45節)

今朝はこの聖句を中心にイエス様が「救い主」と呼ばれるのはなぜなのかということについて考えたいと思います。というのも、イエス様の弟子たちを始め、周囲の人たちの「救い主」のイメージとイエス様が教え、その生き方によって表明された「救い主」の姿の間に大きなギャップが存在しているからです。

1) 当時の人達のメシア・救い主についての理解  
イエス様に魅力を感じて近づいてきた人達の一部から、救い主は政治的解放者となる存在とみなされてきました。

ユダヤ民族を再結集し、ローマの支配を振り払う存在として見られていたのです。

そして、イエス様こそその人だと期待されていました。

ところが、イエス様は自分に従ってくる者たちが、ご自分のことを「メシア」と呼ぶことを決して許しませんでした。むしろ、奇跡が起こされた時も「決して誰にも言わないように」と語りました。

さらに、イエス様がご自分のことをメシアとみなしていたとしても、それは熱心党や他の国粋主義的な集団との関わり深い政治化した形態においてではありませんでした。

また、当時の人達のメシア待望は「勝利のメシア待望」でした。

ですからイエス様が通過した「苦難・十字架の死」という事実は、この待望と全く噛みあわなかったわけです。それは人々が期待していたようなメシアではありませんでした。

実は、イエス様をメシアと理解しなかったのはユダヤ人の無知や罪ということではなく、イエス様が全く別の概念を結びつけてやってきたことによると言っても良いと思います。つまり、それがわかるためには信仰を必要としたのです。

2) イエス様の示された「新しいメシア・救い主」

イエス様ご自身の主張は、政治的な解放運動に対するものではなく、宗教者批判はあったにせよユダヤ教改革運動でもありませんでした。

つまり、イエス様に当てはめられる「メシア・救い主」という定義は当時理解されていたものとは、全く違うものとして用いられていたこととなります。

イエス様は、今までの誰とも違う「神の国をもたらすメシア」「神の愛を届ける救い主」なのです。これらの「霊的な王国のメシア」という姿と意味は、イエス様の十字架と復活の出来事のあと、やっと理解され始めるようになりました。

イエス様は、神の恵みが善人にも悪人にも豊かに注がれていることを教え、神の支配がどんな人にも届いていることを教えました。

また、神は人が「神の支配のもとに、そのことを意識しながら生きる」ことを喜んでおり、神が保護者であり、愛であることを教えました。

その愛を知り、礼拝者として応答するようという教えが中心でした。

その祝福を享受するためには、政治も人種も経験も関係なく、イエス様に対する信頼のみが必要だということなのです。

つまり、イエス様は、人の心を神に結びつけ、祝福をもたらす仲介者としての役割を担う「メシア」ということなのです。

でもそのための和解のために自らが「罪そのもの」となって十字架で神からの裁きを私たちの身代わりに受ける必要がありました。

苦難は必須だったのです。

福音書は、それらのことを踏まえて

「新しいメシアとしてのイエスキリスト」を教えてください。

すなわち

1. 罪人や弱者、救いや助けを必要としている人達のための救い主。

人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。(ルカ 19 章 10 節)

弱者との連帯し、大胆に苦難の中にいる人達と共に歩む救い主です。

2. 旧約的な征服者像を払拭している救い主。

イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」(マタイ 8 章 20 節)

受難の前、イエス様はロバに乗ってエルサレムに入られました。そこには謙遜な王の姿が表現されています。

3. 求めがなければ価値さえ感じられない「救い主」

11:15 耳のある者は聞きなさい。

11:16 今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。

11:17 『笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、／悲しんでくれなかった。』

11:18 ヨハネが来て、食べも飲みもしないでいると、『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、

11:19 人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しさは、その働きによって証明される。」マタイ 11 章 15 節～19 節

11:27 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。

11:28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

4. 自らが苦しみ、自らが貧しくなる僕としての救い主

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」 マルコ 10 章 45 節

これらは当時の人たちにとっては想像することさえ難しかったと思います。

でも、新約聖書が書かれ、福音書の中に書かれているさまざまなエピソードを読んでいくと、これらの内容が浮かび上がってきます。

その根底にあるのは「神の愛」「誠実」「謙遜」そして「いのちの提供」

最初の人に神が「いのちの息を吹き入れ、人が生きたものとなった」ように神はイエス・キリストを通して「私たちに愛に溢れるいのちの息を吹き込み、(聖霊はまさに、神の私たちに対する新しい霊的ないのちの吹き込みです)

イエス・キリストに私たち人間の痛み、悩み、悲しみ、不安、おそれ、をすべて担わせ、私たちの罪をすべて十字架に集約し、処理してくださいました。神、ご自身が御子イエス・キリストを通して苦しみを担われたのです。

今週は受難週。

イエス様は、あなたを愛し、あなたに神の祝福を届けようと来られそして、あなたの罪を担って十字架に向かってくださいました。

また、今のあなたの苦難の真っ只中を共に歩んでくださいます。

そのことをしっかり心に留める一週間となりますように。

\*\*\*

「ひとりの孤高の生涯」

訳：関根一夫

彼は、世に知られぬ小さな村のユダヤの人家庭に生まれた。

母は、貧しい田舎の人だった。

彼が育ったところも、世間にはあまり知られていない小さな村だった。

彼は 30 才になるまで大工として働いた。

それから、旅から旅の説教者として 3 年を過ごした。

一冊の本も書かず、事務所も持たず、自分の家も持っていなかった。

彼は、自分の生まれた村から 300 キロ以上出たことはなく、

偉人と言われる有名人にはつきものの「業績」を残したこともなかった。

彼は、人に見せる紹介状を持たず、自分を見てもらうことがただひとつの頼りだった。

彼は、その地域を巡回し、病人をいやし、足なえを歩かせ、盲人の目を開き、神の愛を説いた。神は善人にも悪人にも雨を降らせ、太陽を昇らせ、溢れ

るほどのいのちと愛を提供しておられることを、語った。

ほどなく、この世の権力者たちは彼に敵対しはじめ、世間もそれに同調した。

彼の友人たちは、みな逃げ去った。

彼は裏切られ、敵の手に渡され、裁判にかけられ、ののしられ、唾をかけられ、殴られ、引きずり回された。

彼は十字架に釘づけにされ、二人の犯罪人の間に、その十字架は立てられた。

彼がまさに死につつある時、処刑者たちは彼の地上における唯一の財産、すなわち彼の上着をくじを引いてわけていた。

彼が死ぬと、その死体は十字架から下ろされ、借り物の墓に横たえられた。

ある友人からの、せめてものはなむけであった。

2000 年という長い年月が過ぎていった。

今日、彼は、人間の歴史の中心、前進する人類の先頭に立っているようだ。

「かつて進軍したすべての軍隊、かつて組織されたすべての海軍、かつて開催されたすべての議会、かつて権力を振るいながら統治したすべての王たちの 影響力のすべてを合わせ一つにしても、人類の生活といのちに及ぼし与えた影響の大きささにおいて、

あの『ひとりの孤高な生涯』には到底及びも つか なかった。」と断言しても間違いではないだろう。

\*\*\*\*\*

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/YfnrUvXISmA>